



1 国家試験、合格願う学生達!



グループに分かれ七夕飾りを作る学生たち

本年度の七夕飾りは、1年生がグループ毎に竹飾りを作りました。また、願い事を書いた短冊が飾られました。やはり「基本情報技術者試験合格」が多く書かれていました。また、世界平和を願うメッセージもありました。混沌とする時代ですが、次代を担う学生の皆さんが夢を持ち希望を忘れずに未来を切り開いて欲しいと思います。



完成した七夕飾りを前にポーズをとる学生

2 恩師に嬉しい成果報告!

★ 県立中央高等学校



モダンな母校の校舎と土肥綺音さん



恩師の石川尚樹教諭と土肥綺音さん(左から)

生産管理コース2年の土肥綺音さんが、大学校の生活や就職内定などの成果を恩師に報告しました。訪問した県立中央高等学校の石川尚樹先生は「高校時代の担任として気になっていましたが、進路も決まり良かった」と笑顔で話されていました。土肥さんは、「石川先生に親身にお世話になり、とても感謝しています」と笑顔で話していました。

3 『記事トレ』紹介



本校では、IT専門力に加え社会人基礎力の向上のため『記事トレ』を実施しています。新聞を読み、要約とIT技術者としての感想を書くトレーニングを通して読み解く力を育成します。

＜記事トレ＞読売新聞(2025年7月10日)
参院選私の視点 女性の理系進出課題

●千葉春奈さん(多賀高卒)

◇要約: 女性の理系分野への進出が少ない現状に対し、プログラミングスクールを起業した多田さんが、性別に関係なく挑戦できる環境づくりの重要性を語っている。

特に教育現場での意識改革が重要だと訴えている。

◇感想: 多田さんのように、性別に関係なく自分の好きな理系分野で、活躍できる社会造りを目指す姿が素晴らしいと感じた。

私自身も偏見にとらわれず、自分が目指すIT技術者となり、社会に貢献したいと強く思った。

●新里翔和さん(石岡商高卒)

◇感想: IT環境において、「プログラミングは男性がやる」という固定観念が今だにある。

現在では、男女に関係なく、「ゼロから1を作ることが大切」となっている。IT業界においてよりより良い人材となれるよう頑張っていきたい。

●加藤陽向さん(常磐高卒)

◇感想: いろいろな話を聞く中で、昔より理系に進む女性が増えていると思う。

「男性の多い様々な分野の中に、女性が入ると新たな革新が生まれるはずだ」という意見に賛同する。より良い未来になると思う。



●照山裕人さん(小瀬高卒)

◇感想: 私も男性がプログラミングするという固定観念を無くし、女性もプログラミングする社会の方が良いと思う。

このことは他の分野にも言えることだと思う。性別に関係なく、様々な分野で活躍できる社会が広がってくると考える。

●市村駿太さん(常磐高卒)

◇感想: 女性の理系進学は、これからの社会にとって重要だと思った。

特にITやプログラミング関連は、人手不足と言われることや男性が多いことなどからも女性のITエンジニアが増えることで課題改善につながると思った。

